

平成23年度 園芸特産業関係功労者表彰受賞者功績概要

(敬称略)

こみやま たかお 小宮山 隆男(北佐久郡立科町)

昭和40年代からりんごの栽培を行うとともに地域のりんご振興に取り組む。

地域の若手リーダーとして、りんごの無袋栽培に先駆的に取り組むとともに、地域にも技術を普及させて「サンふじ」、「サンつがる」の商品化を実現し、高品質りんごとしての「たてしなりんご」ブランドの確立に大きく貢献された。

また、地域の卸売市場や量販店との連携による新たな販路開拓に尽力したほか、後継者育成組織を設立するとともに活発な活動を展開することにより、りんごの生産振興に大きく貢献された。

たけうち はるお 竹内 春男(東御市)

昭和20年代以降、一貫してくるみ種苗の生産を行い地域のくるみ振興に貢献された。

特に、接木繁殖が難しいとされるくるみの接木技術について研究を重ね、昭和30年代に技術を確立する。このことにより優良系統種苗の安定的な生産・供給が可能となり、全国一の生産量を誇る本県くるみの品質安定と生産面積拡大に大きく貢献された。

また、くるみに関わる各分野の関係者とともに「日本くるみ会議」を設立し、役員として活動することにより、東御市の市木の制定、くるみ祭りの開催などくるみによる地域の活性化に大きく貢献された。

かすが てるお 春日 照夫(伊那市)

昭和50年代以降花き栽培を行い、新品目や新技術の導入に努めて地域の花き生産振興に貢献された。

当時、国内でほとんど栽培されていなかったアルストロメリアに着目して栽培を開始し、地域の仲間とともに栽培技術を徐々に確立しながら、品質の向上と生産量の拡大を進めた。

特に、開発段階から関わった地中冷却技術については、アルストロメリアの通年出荷を可能にする技術として、上伊那地区はもとより県内各産地に広く普及しており、全国一のアルストロメリア産地確立に大きく貢献した。

みなみ^{しんしゅう}信州^{のうぎょうきょうどうくみあい}農業協同組合^か花き部会^{ぶかい}（飯田市）

平成10年発足以来、中産間地域が多く高齢化が進むといった条件の中で、先行大産地とは一線を画す戦略を展開して新たな花き産地を形成した。

小規模でも市場や消費者の多様なニーズに応え、何でもそろう産地を目指し、標高差、傾斜地や日陰地の利用、季咲品目と周年品目の組合せ、実物花木の周年出荷などにより取扱い品目は100を超え、販売額も年々増大している。

特に、市場ニーズに応えて平成17年度に生産を開始したダリアは、部会として市場調査、品種検討、栽培技術向上対策を総合的に行った結果、フラワー・オブ・ザ・イヤ－O T A 2008 年度グランプリを受賞するなど、量・品質ともに全国一の産地に成長した。

ふるはた^{ふるはた}古幡^{よしあき} 芳明（下高井郡山ノ内町）

昭和40年代以降、一貫してりんごの栽培を行いりんごの生産振興に貢献された。

氏が自園で見出し選抜した優良着色系つがる「芳明(ほうめい)」は、着色が優れてい
る上、食味も損なわれず、つがるの主力系統として県内はもとより広く県外まで普及し
てりんご産業に多大な貢献をしている。

また、「ふじ」の品質向上と多収のための栽培技術に研究・研鑽を重ね、せん定、摘
果・花に重点を置き、下垂枝を利用した独自の栽培技術を確立され、県内外のりんご生
産者への普及・指導活動を続けている。

J A ^{きたしんしゅう}北信州^のみゆきズッキーニ^{ぶかい}部会（飯山市）

昭和40年代の導入当初には国内でほとんど栽培されておらず、栽培方法や特性が未
解明で、消費者の認知度も低かったズッキーニの産地化に向けて、栽培試験、品種試験、
防除方法の検討、試食会や調理方法の提案などの消費拡大活動を地道に続け、果菜類新
品目として全国でも有数の産地を形成した。

また、当部会で策定した栽培指針や出荷規格は、県内他産地での導入に当たっても基
本とされ、本県は全国第2位の生産県の地位を築いている。